第 23 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
研究者・技術者にとっての選択的夫婦別姓制度

【日時】2025 年 10 月 11 日（土）10:00～16:30
【形式】 日本大学生物資源科学部湘南キャンパス　大講義室＆オンライン開催
【主催】一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（幹事学会：一般社団法人日本森林学会）
【後援】一般社団法人日本私立大学連盟、独立行政法人国立女性教育会館、
日本大学生物資源科学部、一般社団法人国立大学協会、
一般社団法人日本経済団体連合会　（ほか）
【参加費】個人会員・一般：無料、学協会・大学等：7000 円(不課税)
（ポスター展示は別途　税込 3000 円）
【参加申込】　グーグルフォーム
参加〆切：2025年9月19日（金）：連絡会加盟団体、個人会員・名誉会員、
連絡会に非加盟の団体
2025年10月3日（金）：一般
※一般のかたははオンラインでご参加ください
※会員、団体の資料締め切りは9月19日（金）

【問い合わせ先】連絡会 23 期事務局（danjo_office23@djrenrakukai.org）
＊保育室のご利用を希望の方は9月19日までにお問い合わせください。

【趣旨および目的】

一般社団法人男女共同参画学協会連絡会は、これまで毎年の提言・要望活動を通じて、選択的夫婦別姓制度の早期実現を訴えてまいりました。研究者にとって氏名はその業績を示す重要な「看板」であり、結婚による改姓や通称（旧姓）使用が研究活動、職場内での認知、国際的な活動において不利益や制約となっており、とりわけ女性研究者への影響が大きいという現状があります。にもかかわらず、制度的改善は長年にわたり放置されてきました。近年では国連女性差別撤廃委員会が2024年10月に法改正を勧告したことに加え、経済団体・労働団体からも導入の声が上がり、2025年には28年ぶりに国会で本制度に関する質疑が行われるなど、状況に変化が見られています。

本会はこのたび、選択的夫婦別姓制度に関する理系分野の研究者・技術者の実態把握を目的としたアンケート調査（回答数7,582名）を実施し、その結果をもとに、衆議院法務委員会で参考人による意見陳述を行いました。現行制度において現場の研究者・技術者が直面する課題を社会に共有・発信するとともに、制度的課題への理解を広めることを目的に、「研究者・技術者にとっての選択的夫婦別姓制度」をテーマとしたシンポジウムを開催します。シンポジウムでは調査結果の報告およびパネルディスカッションを通じて、次世代の研究者や技術者が性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮できる研究環境の整備に向けた議論の場とすることを目指します。

■プログラム

【午前の部（10:00～11:30）】

開会挨拶　一般社団法人日本森林学会 会長　正木　隆 氏

歓迎の挨拶　日本大学業務執行理事　渡辺 美代子 氏

連絡会活動報告：

第23期活動報告(佐藤)・WG 活動報告(各WG委員長)

「選択的夫婦別姓に関するアンケート結果報告」
第23期男女共同参画学協会連絡会代表理事　佐藤　宣子　氏
理事　高山　範理　氏

【昼の部（11:30～13:00）】
ポスターセッション(昼食)

【午後の部（13:00～16:30）】

ご来賓挨拶
前内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長　松尾　泰樹　氏

趣旨説明

基調講演「選択的夫婦別姓制度の実現に向けて一歴史と論点」
夫婦別姓訴訟弁護団弁護士　榊原　富士子　氏

パネル討論登壇者自己紹介 15分×5名

「通称使用を巡る手続き上の負担とそれに伴う精神的負担：海外調査と成果発信の両側面から」
九州大学大学農学研究院　日本学術振興会特別研究員（PD）加反 真帆 氏

「海外での通称利用に関する困りごと事例紹介」
国立研究開発法人　産業技術総研究所　特別研究員　吉澤 和子氏

「技術者における夫婦別姓の課題」　パシフィックコンサルタンツ株式会社
飯島 玲子 氏

「旧姓併記のなまぬるさ」東京大学大気海洋研究所　教授　沖野 郷子 氏

「男性事実婚研究者の生活と意見ー2.7%のマイノリティーとして」

国際緑化推進センター　技術顧問/（国研）森林研究・整備機構　森林総合研究所フェロー
田中 浩 氏

休憩　　15:20～15:30

パネル討論　15:30～16:20

パネリスト：榊原氏、加反氏、田中氏、吉澤氏、沖野氏、飯島氏

ファシリテーター：田中氏

閉会挨拶　16:20～16:30

幹事学会からの挨拶　連絡会第 23期運営委員会　委員長　佐藤　宣子氏

次期幹事学会からの挨拶　日本数学会